



アジェイ・バンガ

世界銀行グループ第14代総裁



2023年6月2日、世界銀行グループ総裁(任期5年)に就任。付与された明確な使命は、創設80年となるこの機関の、より迅速で、より効率的で、より影響力のある開発パートナーへの変革だ。

就任以来、世界銀行の新たなビジョンとミッションの策定を主導。それは、「貧困のない世界を、居住可能な地球上で実現する」というものだ。バンガのリーダーシップの下、世界銀行は融資能力の向上、業務の簡素化、なおかつ実用的で拡張性があり、効果の高い開発ソリューションの提供を目指し、幅広い改革を実施。そして、より機敏な組織、つまり、より協働しやすく、成果達成に重点を置いた組織の構築を最優先として追求してきた。

バンガ政策の中核にあるのは、雇用創出こそ開発の最も強力な原動力で、収入だけでなく尊厳と生きがいも提供するという信念だ。この信念に基づき、2030年までにアフリカで3億人に電力を供給し、各国で15億人に質の高い手頃な価格の医療へのアクセスの提供に加え、成長を促進し、食料安全保障を向上させ、さらに経済機会も創出する現代的なアグリビジネスアプローチを開発するなどの新たな取り組みに貢献した。

また、民間セクターの力の活用にも改めて注力。開発パートナー、慈善団体、投資家との連携を強化し、新興市場における民間資本の稼働阻害要因に対処するために、先駆的なCEOや資産運用家を結集する「民間セクター投資ラボ」を設立した。バンガのアプローチは根本的な変化を反映している。その変化とは、大規模な開発が、民間セクターのイノベーション、資金調達、そして実行力なしには進展不可能ということだ。

総裁就任前は、米投資会社ジェネラル・アトランティック副会長。それ以前は世界で従業員24,000人近くを擁する国際企業マスターカード会長兼CEOとして、金融包摂を同社の中核戦略として指揮。公正かつ持続可能な経済成長を推進する包摂的成長センターを立ち上げた。

また、民間セクター以外でもリーダーシップを発揮。2020～2022年は国際商工会議所名誉会長を務めたほか、米国赤十字、クラフトフーズ、ダウの役員も歴任。サイバー対策研究所の共同創設者にも名を連ねた。その貢献は幅広く評価され、2022年にシンガポール政府より国家勲章であるパブリック・サービス・スター、2016年にインド大統領からパドマ・シュリー勲章、2012年に外交政策協会メダル、エリス島名誉勲章を受勲した。

世界銀行グループ総裁として、アジェイ・バンガは、現代を形作る重要課題に、迅速かつ大志を抱き、成果を出すことへの飽くなき追求を基本として立ち向かうために、グループ組織の変革を続ける。